

# たかお こまぎの ていえん 高尾駒木野庭園

## ちせんかいゆうしきていえん 池泉回遊式庭園

心字池の周りに設置された園路を歩きながら、庭の景観とその変化を楽しむ庭園形式です。金閼寺（鹿苑寺）、二条城二の丸庭園などが有名です。

本庭園では、心字池を中心に園路を配置し、鶴島、亀島、滝石組、藤棚、蓮池などを回遊しながら観賞できます。また、庭園内の様々な場所から異なった景を楽しむことができます。

## かれさんすい 枯山水

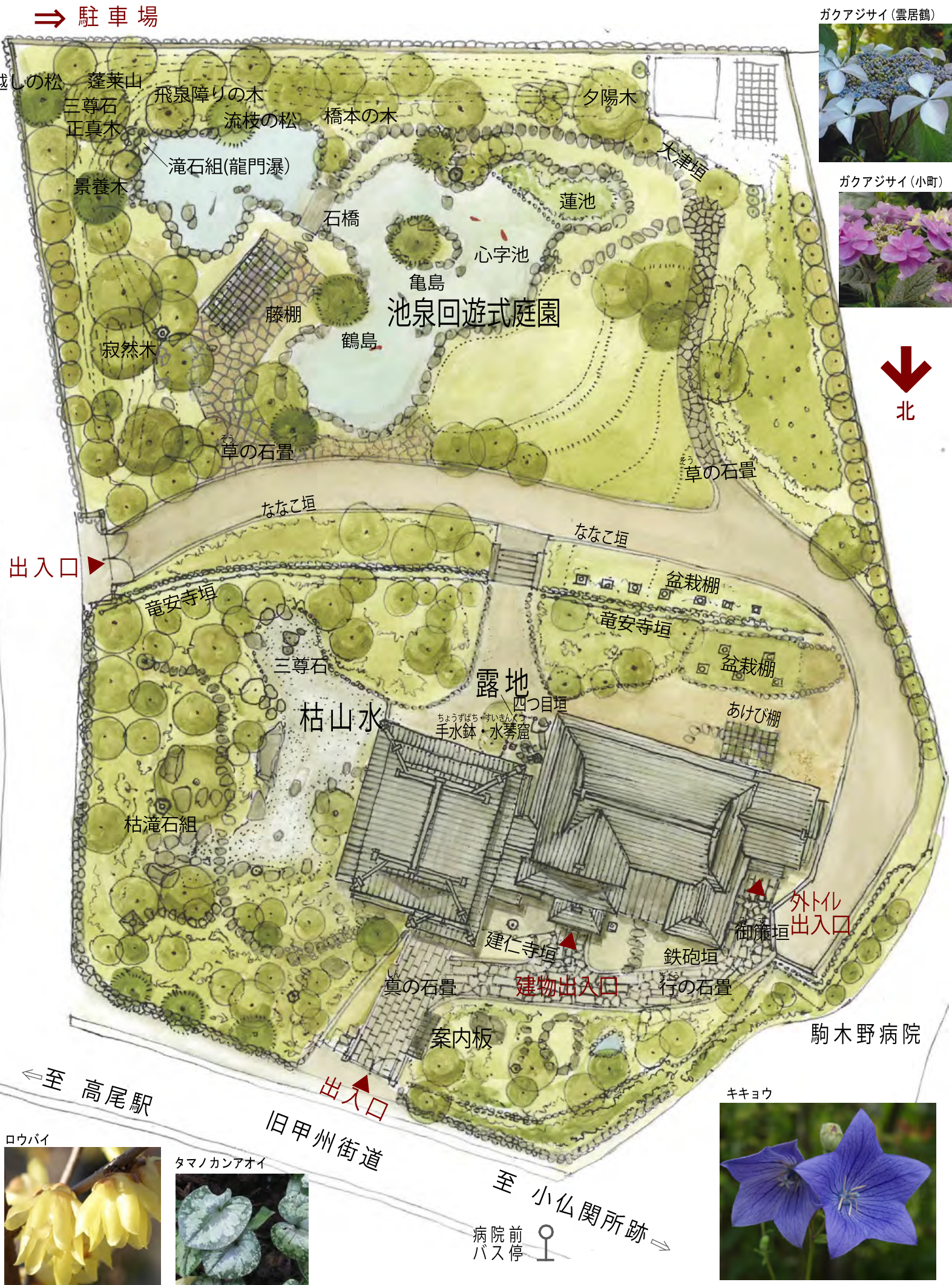
室町時代に禅宗寺院の庭を中心に発達した庭園形式です。白砂の上に大小の自然石や植栽などを組み合わせることで、ひとつの観念的世界を表現します。屋内から静かに対峙して観賞します。大徳寺大仙院書院庭園が代表的です。

本庭園は水のかわりに砂利を用いて、枯滝石組、三尊石などを配し、深山幽谷の流れを表現しています。



## ろ ぢ 露地

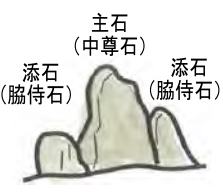
露地とは茶庭ともいい、茶室に付随する庭園の通称です。本庭園は自然石手水鉢を用いた表千家様式で、下部に水琴窟を設置することで、用・景だけでなく音も楽しめるようになっています。



すい きんくつ ちようすばち  
水琴窟 手水鉢の排水口下の地中に瓶を伏せて入れ、一定量の水が溜まるようにし、上から水を落として、水のしたたりが奏でる共鳴音を聞く仕掛けのことです。



さんぞんせき  
三尊石 仏像、仏画、三尊仏のように、中央に配した背の高い主石（中尊石）と左右に配した低い添え石（脇侍石）の組み合わせにより浄土思想を表現したものです。



りゅうもんばく  
龍門瀑 「鯉が滝を昇りつめて龍と化す」という禅の思想を表現した滝石組です。

やくぼく  
役木 日本庭園における庭の景観の趣を出すために植えられる庭木のことです。本庭園では以下の役木が植栽されています。

しょうしんぼく けいようぼく じゃくなんぼく せきようぼく  
正真木(ツツリ)、景養木(ヨリマツ)、寂然木(リヨ)、夕陽木(タゲリ)、見越しの松(アカマツ)、灯籠控えの木(イヅナ)、灯障りの木(ミヅ)、橋本の木(ヨリム)、鉢請けの木(アヒ)、飛泉障りの木(ミシ)、流枝の松(クロマツ)、滝囲い(クハネ)

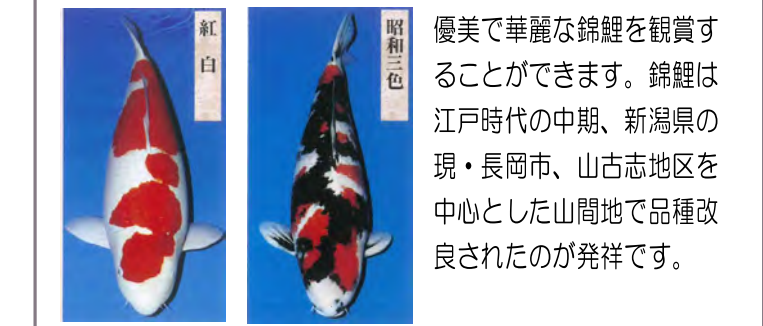
とうろう 本庭園では、蓮華寺形、濡鷺形、泰平形、織部形、春日形、雪見形、石塔(層塔)をみることができます。

けんにんじ りょうあんじ  
竹垣 本庭園では、建仁寺垣、竜安寺垣、ななこ垣、四つ目垣、御簾垣、大津垣、鉄砲垣をみることができます。

盆栽 (社団法人日本盆栽協会八王子支部寄贈)  
本格的な盆栽を観賞することができます。



錦鯉 (全日本錦鯉振興会寄贈)



心字池では色とりどりの優美で華麗な錦鯉を観賞することができます。錦鯉は江戸時代の中期、新潟県の現・長岡市、山古志地区を中心とした山間地で品種改良されたのが発祥です。

